

博物館だより



〔新収蔵資料〕高瀬想風『錆絵 漆の筥』

(1961年頃、漆芸複合技法、高さ10.2×幅33.0×奥行15.0cm)

高瀬想風(1898~1977)は、高岡漆器を代表する技法「錆絵」の名工・原省斎に師事し、市内在住の漆芸家として初めて帝展(現在の日展)に入選、戦後は日本工芸会富山支部の結成(1963)に参画するなど、近代高岡で作家活動を展開した最初の一人でした。錆絵とは、漆で固く練った砥粉を用い、文様をレリーフ状に盛り上げて造る技法ですが、ここでは極細の線を長々と引く超絶技巧を見せています。高岡の工芸家のモダンデザインへの関心を伝える点でも貴重なものです。特別展「高岡の工芸資料」(会期:2012年7月28日~10月14日)で展示を予定しています。

博物館としての役割 ～先人の足跡をたどり今を生きる～

このたび、当館の晒谷和子館長(高岡市教育委員会理事、財団法人高岡市民文化振興事業団事務局長)が、平成24年(2012)3月31日をもって定年を迎えることになりました。晒谷館長は、昭和49年(1974)に高岡市役所に入り、昭和57年度は博物館主事として、平成19年(2007)4月からは館長として勤務しています。



博物館の魅力は、何といても実物の資料に会えることです。

高岡市立博物館の収蔵資料の多くは、市民の皆さんから寄贈や寄託を受けたものです。これらを大切に保存・管理しながら、展示活動をおこなっています。博物館の資料は、先人の生活、知恵、技などを今日に伝えるものです。私たちは、今ある資料の散逸を防ぎ、新たな資料の発掘、発見に取り組みながら、貴重な文化財を次世代へと伝える大きな役割を担っています。

近年は、とくに高岡開町400年(2009)を契機として、市民の方々の地域学習への意欲が大いに高まり、また昨年の「歴史都市」認定により、ますます地域の歴史を見直そうという動きが盛んになってきています。

過ぎ去りし日々を知ることは明日を考える原点です。私たち博物館に、高岡の歴史や文化を知るためのお手伝いをさせてください。皆さん一人ひとりが生まれ育った地域の歴史に、誇りと愛着を感じていただけるようになることを願ってやみません。

(館長・晒谷和子)

高岡市立博物館に勤務して

このたび、当館の油井政和副館長が、平成24年(2012)3月31日をもって任期を終えることとなりました。油井副館長は、昭和48年(1973)に高岡市役所に入り、平成15年(2003)4月から19年(2007)3月までの4年間を博物館長として、平成23年度は当館副館長(嘱託)を務めました。



館長としての在職中、私にとって特に印象深い展覧会となったのが、二つの企画展「百万石の大工さん」(2003年)と「高岡城」(2004年)です。

「百万石の大工さん」では、瑞龍寺や勝興寺にみられる建築技術を紹介しました。勝興寺修復工事にたずさわる大工さんのご協力をいただき、修復現場で実際に使われている道具や、屋根の組み物の模型などの資料を展示しました。「高岡城」では、近世初頭に築かれた高岡城が、市民が憩う公園として現代まで残されてきた過程について、新発見の絵図資料等も交えながら紹介しました。どちらの展示も、ご来館いただく皆さんの心に強く残る展示となるよう心がけました。

当館では、高岡の歴史・民俗・産業にかかわる展覧会、郷土学習講座や土曜おもしろ講座などの講演会、呈茶の会やワークショップなどのイベントを行なっています。これら一つひとつの活動が、ご来館いただく皆さんにとって、当館への親しみと愛着を感じていただくきっかけとなれば嬉しく思います。

(副館長・油井政和)

平成23年度の高岡市立博物館

7月より開催した特別展「セピア色の高岡 一目でみる街の記憶―」では、明治から昭和までの高岡の絵はがきや観光地図といった資料を紹介し、会期中の蓄音機コンサートなどもご好評をいただきました。2月からの館蔵品展「新資料展」では、当館が近年新たに収蔵した資料などを5月6日まで展示しています。

また、新しい試みとして、桜の開花時期に合わせた屋上開放「古城公園展望台」や、30分間のショートレクチャー「土曜おもしろ講座・高岡のみじかい話」を開き、多くの皆さんにお楽しみいただきました。

毎年恒例のイベントとして、郷土学習講座は「浄土真宗」をテーマに、計5回開講しました。そのほか、呈茶の会「松聲庵」(4月、11月)、ワークショップ「切り紙で前田利長・利政のカブトをつくろう！」(4月)、「たかおか歴史探検隊! きみも1日学芸員になってみよう」(8月)を開催しました。

今後もさまざまなイベントを企画してまいります。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

(学芸員補・中村知子)



呈茶の会
(4月9日撮影)



屋上開放「古城公園展望台」
(4月12日撮影)



「土曜おもしろ講座・高岡のみじかい話」
(6月4日撮影)

特別展 「セピア色の高岡 一目でみる街の記憶―」

会期：2011年7月30日(土)～10月16日(日)

この展覧会では、明治から昭和までの絵はがきや観光地図など、当館所蔵の資料228点を展示し、近代高岡のモダンな風景、華やかなお祭りやイベントの様子を紹介しました。

「1. あたらしい高岡」では、明治期高岡の商工業の近代化に関する資料を展示しました。明治以降、伏木港周辺に重化学工業の進出が相次ぎ、鉄道などの港湾施設が充実しました。一方で、一般への電燈の普及や電話交換の開始、水道の整備、道路拡張工事など都市インフラが充実されます。「2. なつかしい高岡」では、古城公園をはじめ、移りゆく高岡の風景を紹介しました。山町筋には防火に優れた土蔵造りの建物や、数多くの洋風建築が誕生します。近世と近代が融合した特色ゆたかな街並みは、戦火を免れて現在に至るまで残されています。「3. にぎわう高岡」では、明治から昭和の高岡の催しや祭礼について紹介しました。明治42年(1909)の皇太子殿下(後の大正天皇)の行啓や、大正2年(1913)の高岡開市300年記念祭の開催、昭和26年(1951)の高岡産業博覧会、同33年(1958)の富山国体など、多彩なイベントには市内外から多くの人々を集めました。



園合馬場馬場高
絵葉書「高岡桜馬場公園」
(大正2年)

(学芸員・藤井恵里)

高岡市立博物館 スケジュール 2012年4月～2013年3月

イベントスケジュール		展示	イベント・講座
4月	4/1 常設展 「新資料展」	「館蔵品展」	4/7 「松聲庵 —博物館で抹茶を楽しみませんか—」(春)
			4/29 ワークショップ「切り紙でシガシラをつくろう!」
5月	「高岡ものがたり —楽しく知ろう—」	5/6	5/19 郷土学習講座(1) 「高岡ならではの話・総論」
6月			6/16 郷土学習講座(2) 「高岡の考古・古代」
7月			7/14 郷土学習講座(3) 「高岡城」
8月	「高岡の工芸資料」 特別展	7/28	8/25 「たかおか歴史探検隊! ～きみも一日芸員になってみよう～」
9月			9/15 郷土学習講座(4) 「高岡の伝統産業」
10月	「通年開催」	10/14	10/6 特別展講演会 「近代高岡の工芸」
11月			11/10 「松聲庵 —博物館で抹茶を楽しみませんか—」(秋)
12月			12/8 郷土学習講座(5) 「高岡の民俗」
1月			
2月		2/9	
3月		「館蔵品展」	
		3/31	

◆呈茶の会「松聲庵—博物館で抹茶を楽しみませんか—」

柔らかな日差しが降り注ぐ森の中の古いお茶室で、本格的なお茶席をお楽しみいただけます。茶室見学会終了後は、博物館屋上から古城公園の眺望を楽しめます。公園への散歩がてら、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。



日時：〔春〕4月7日(土)

〔秋〕11月10日(土) 両日とも午前10時～午後3時

参加料：400円(お茶とお菓子)

茶室見学会：①午前11時～ ②午後2時～ (無料)

常設展示説明会：①午前11時30分～ ②午後2時30分～ (無料)

◆特別展「高岡の工芸資料」

会期：2012年7月28日(土)～10月14日(日)〔68日間〕

昭和45年(1970)開館の当館には、金工や漆芸など工芸に関する資料が多数所蔵されています。そのうち受入時期が最も古いものは、高岡市商工奨励館(前身は明治42年開設の高岡物産陳列所)から移管されたものです。これらの資料を通じて高岡の工芸史・産業史の特質を紹介し、工芸の街における博物館の役割を考えます。(入館無料)

○特別展講演会「近代高岡の工芸」

日時：2012年10月6日(土)午後2時～3時30分

講師：寺尾健一氏(金沢大学非常勤講師・工芸史家)

会場：当館(新館)3階講堂

定員：先着80名(申し込み不要)

受講料：無料

◆郷土学習講座「高岡ならではの話」(全5回)

高岡の歴史・民俗・伝統産業について、当地「ならではの」の話題を各分野の研究者よりご紹介いただくシリーズ講座です。

〔第1講〕「高岡ならではの話・総論」

講師：金川欣二氏(国立富山高等専門学校一般教養科教授)

日時：2012年5月19日(土)午後2時～午後3時30分

〔第2講〕「高岡の考古・古代」

講師：大野 究氏(氷見市立博物館館長補佐)

日時：2012年6月16日(土)午後2時～午後3時30分

〔第3講〕「高岡城」

講師：田上和彦氏(高岡市教育委員会文化財課埋蔵文化財担当)

日時：2012年7月14日(土)午後2時～午後3時30分

〔第4講〕「高岡の伝統産業」

講師：山崎達文氏(金沢学院大学美術文化学部長)

日時：2012年9月15日(土)午後2時～午後3時30分

〔第5講〕「高岡の民俗」

講師：羽岡ゆみ子氏(富山民俗の会会員)

日時：2012年12月8日(土)

〔いずれも〕会場：当館(新館)3階講堂

定員：先着80名(申し込み不要)

受講料：無料



米田鳩秀(デザイン)、鷲塚暁珉(鋳金)

「青銅—文字型水盤」

(昭和5年、第17回商工展二等賞、当館蔵)

—開館時間—
午前9時～午後5時
(入館は4時30分まで)

—休館日—
毎週月曜日
(月曜日が祝・休日の場合はその翌平日)
年末年始
(12月29日～1月3日)

—交通—
JR高岡駅より徒歩15分

—入館無料—